

2021年6月10日

宮交ホールディングス株式会社
代表取締役社長 菊池克頼

2020年度 業績に関するお知らせ

当期におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言等の発出による移動制限や外出自粛によって経済活動が弱まり、企業収益の大幅な減少が続きました。

宮交グループでは、その環境に耐え抜くために①安全防疫体制の確立 ②運転資金の確保 ③資金流出の防止 ④既存事業の見直し の4つを柱に力を注ぎながら事業部門ごとに様々な施策に取り組んでまいりました。

当期の主な取り組みとして、宮崎交通では、需要減退に合わせて路線バス、高速バスの減便・運休のほか、バスセンターや旅行カウンターの営業時間短縮や店舗閉鎖による営業規模の縮小に取り組む一方で、JR九州との共同事業「アミュプラザみやざき」を11月に開業させ、街の賑わいの創出を図ってまいりました。宮交タクシーでは利用客数が低迷する中、飲食店の商品配達など新たなビジネスに取り組みました。宮崎観光ホテルでは東館の客室クローズやレストランの臨時休業・営業時間の短縮を行い、経費圧縮を図りました。青島リゾートでは緊急事態宣言期間に全館休業し、損益改善に努めたほか、県内小学校の修学旅行を積極的に受け入れました。宮交ショップアンドレストランでは県内旅行者等をターゲットに商品展開を図りました。宮崎ビルサービスでは、新規事業の獲得や契約単価の見直しに努めるとともに、人件費抑制や外部委託費を抑制しました。

グループ全部門において、コロナ禍においてもお客様に安心・安全にご利用いただくための感染防止対策を講ずるとともに、運転資金を確保するための金融機関との関係強化や公的支援の活用のほか、資金流出防止に向けた設備投資の抑制や諸経費の削減、不採算事業の撤退・縮小などを進めました。

しかしながら、GoTo キャンペーンなどの一時的な持ち直しはあったものの、期を通して様々な施策や取り組みによって影響を最小限に留めるよう努めましたが、新型コロナウイルス感染症の波を大きく受け、業績への影響は避けることができませんでした。

以上の結果、当期の連結売上高は97億60百万円（前期比56.4%）、連結営業損失は27億83百万円、法人税等を差し引いた親会社株主に帰属する当期純損失は15億44百万円となりました。

1. 営業成績の状況
(1) グループ業績 (連結ベース)

(単位：百万円)

【連結グループ業績】	当期実績	前期実績	前期比較	前期比 (%)
営業収入	9,760	17,291	△7,531	56.4
営業損益	△2,783	606	△3,389	—
経常損益	△1,568	459	△2,028	—
親会社株主に帰属 する当期純損益	△1,544	324	△1,868	—
償却前営業損益	△1,901	1,477	△3,378	—

注1) 数値については、連結ベースでございます。

注2) 連結子法人は次の7社でございます。

 宮崎交通(株)、宮交タクシー(株)、(株)宮崎観光ホテル、青島リゾート(株)、
 宮交ショップアンドレストラン(株)、宮崎ビルサービス(株)、宮交都市クリエイト(株)

 *宮崎ビルサービス(株)は、2021年4月1日付にて宮交ビルマネジメント(株)に社名変更
 しております。

注3) 持分法適用法人は、次の2社でございます。

宮崎空港ビル(株)、宮崎パブリックゴルフ(株)

注4) 上記数値は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

(2) 事業部門別業績 (連結ベース)

(単位：百万円)

事業部門		営業収入	前期比較	前期比 (%)
宮崎交通(株)	バス事業	3,551	△1,716	67.4
	旅行事業	131	△434	23.2
	航空事業	615	△339	64.5
	保険事業	145	△30	82.7
	こどものくに事業	34	△4	88.2
	熱源センター事業	213	△122	63.5
	不動産事業	346	△38	89.9
	本社	59	0	100.6
小計		5,097	△2,686	65.5
宮交タクシー(株)		1,276	△627	67.1
(株)宮崎観光ホテル		977	△1,904	33.9
青島リゾート(株)		750	△716	51.2
宮交ショップアンドレストラン(株)		1,273	△1,673	43.2
宮崎ビルサービス(株)		1,044	△211	83.1
宮交ホールディングス(株)		334	△103	76.4
連結消去		△991	392	—
連結売上高合計		9,760	△7,531	56.4

注1) 上記数値は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

2. 事業部門別の概況

① 宮崎交通㈱ バス事業

一般路線バスでは、新型コロナウイルス感染症に伴う働き方や生活様式の変化、学校の休校等により、通勤・通学などの日常利用にも影響が拡大し、需要の減少が続きました。その状況に合わせて、5月に減便を実施し、1月には2回の追加減便を実施するなど、生産量を利用実態に近づけながら経費の抑制に努めました。一方、助成金を活用した企画乗車券の割引販売や、「アミュプラザみやざき」の開業に先立って、10月には宮崎駅乗入便数を増加させるなど、利用の促進に努めました。また、運行情報をお知らせするバスロケーションシステムの導入や、複数の交通をひとつのサービスとして提供する仕組みである MaaS(マース:Mobility as a Service の略)の実証実験に取り組むなど、新たな顧客サービス提供を進めました。しかし、年間通してコロナ禍の影響は大きく、乗車人員は 6,684 千人(前期比 71.7%)、営業収入 30 億 11 百万円(同 82.8%)、営業損失 5 億 36 百万円となりました。

高速バスでは、緊急事態宣言解除以降も需要の回復は鈍く、減便や運休による経費抑制に努めました。一方、コロナ禍においても安心して高速バスをご利用いただくため、助成金を活用した車内除菌装置の車両への取り付けや主力路線でのプレゼント企画など需要喚起にも努めました。回復には至らず、乗車人員は年間で 71 千人(同 22.3%)、営業収入 2 億 47 百万円(同 24.1%)、営業損失 2 億 72 百万円となりました。

貸切バスでは、コロナ禍の影響により MICE・各種イベントなど団体のキャンセルや、スポーツイベントの無観客開催などによる受注キャンセルが相次ぎました。秋口の GoTo キャンペーンや春季プロスポーツキャンプ開催により一時的な持ち直しはあったものの、結果として運行回数は 2,789 回(同 45.3%)、営業収入 1 億 98 百万円(同 38.7%)、営業損失 24 百万円となりました。

広告宣伝では、各企業の広告宣伝費削減の影響を大きく受けましたが、主力商品のラッピングバスについては新規 8 台を含む 44 台を受注いたしました。また例年、運営受託している宮崎神宮大祭シャンシャン馬は中止となりましたが、小学生対象の第12 回バスデザインコンテストを実施いたしました。営業収入 92 百万円(同 102.0%) 営業利益 6 百万円(同 47.2%)となりました。

シェアサイクル事業では、駐輪場所数 66 ヶ所、会員数 7,701 名まで拡大しました。上期は新型コロナウイルス感染拡大による直接的な影響は見られませんでした。下期は感染拡大の波を受け、前期を下回る結果となりました。

尚、バス事業では、バス車内の換気、消毒の徹底、全従業員の健康管理の徹底、お客様へのマスク着用の協力依頼を主軸とした取り組み「宮交バスケアスタンダード」を実施し、コロナ禍においても安心してバスをご利用いただける環境を整えました。

バス事業全体では、売上高 35 億 51 百万円(同 67.4%)、営業損失 8 億 32 百万円になりました。

② 宮崎交通㈱ 旅行事業

新型コロナウイルス感染症により、旅行業界としても過去に経験したことのない困難に直面し、移動自粛の影響を大きく受け、団体旅行・主催旅行ともに旅行取扱が激減しました。夏場以降 GoTo トラベルによる国内旅行の回復が若干見られましたが、感染拡大の波の中で旅行需要は期を通して低調に推移し、全体の集客人員が前期比 25.2%、取扱収入も同 13.6%と大きく落ち込みました。

このような中、個人旅行の増加やオンライントラベルエージェントの台頭など、旅行業界全体の潮流の変化とコロナ禍による業績の悪化に対し迅速に対応するため、7月より県内 13 支店を 2 支店に集約し、大幅な固定費の削減と営業体制の再編を実施しましたが、コロナ禍により売上的大幅な落ち込みを補うまでには至りませんでした。

集約によって新たに「宮交トラベルセンター」を開設し、年中無休のコールセンター機

能により利便性を向上させ、県内全域のお客様にサービス提供を開始しました。

旅行事業では、売上高 1 億 31 百万円 (同 23.2%)、営業損失 1 億 9 百万円になりました。

③ 宮崎交通㈱ 航空事業

航空事業では、新型コロナウイルス感染症の影響により、就航便数および旅客数ともに大幅な影響を受けました。運航便数については片道ベースでANA4,465 便 (同 41.2%)、その他 3 社(ソラシドエア、オリエンタルエアブリッジ、ピーチ・アビエーション)合計 8,020 便(同 78.8%)、総合計 12,485 便(同 59.4%)となりました。

旅客数は、年間でANA242 千人(同 23.7%)、その他 3 社合計 380 千人(同 38.2%)、総合計 622 千人(同 30.8%)となりました。

就航便数および旅客数の減少により、地上業務手数料が大幅に減少する中、人件費(時間外)および諸経費の削減を図るとともに、作業安全・接客・定時運航など品質の維持向上にも努めてまいりました。

航空事業では、売上高 6 億 15 百万円(同 64.5%)、営業利益 27 百万円(同 8.4%)と、減収減益になりました。

④ 宮崎交通㈱ 保険事業

新型コロナウイルス感染症により、訪問営業の自粛を余儀なくされましたが、生命保険、損害保険ともに電話やオンラインなど非対面による顧客との接点保持に努めた結果、解約や失効は例年並みに抑えることが出来たものの、新規契約件数が前期比 94.4%と前期を下回る結果となりました。

保険事業では、売上高 1 億 45 百万円(同 82.7%)、営業利益 53 百万円(同 72.0%)と、減収減益になりました。

⑤ 宮崎交通㈱ こどものくに事業

こどものくにでは、新型コロナウイルス感染症防止策を図りながらお客様の安全確保を最優先事項として取り組みました。緊急事態宣言時には 2 度にわたり休園・休場いたしました。

園内広場を利用した大型イベントの中止が相次ぐ中、12 月には感染症対策を遵守しイベント「青島 Yell 歌と花火の Christmas」を感染症対策を遵守し、無事開催することができました。

宮崎県と株式会社ポケモンの地域活性化に関する連携・協力協定の締結を受け、こどものくににマンホール型の「ポケふた」が設置されました。

こどものくにガーデンでは、市民参加型ボランティアグループ「ときどき花くらぶ」が第 4 回美しい宮崎づくり大賞を受賞したことにより、宮崎市中心部の「花みちプロジェクト」等、園内に留まらない植栽ボランティアの活動の場も広がりました。

園内併設の「宮崎市青島パークゴルフ場」も、コロナ禍の影響を受け、インバウンドの誘致や全国規模の大会開催の自粛等の結果、来場者数 21 千人(同 74.4%)となりました。

こどものくに事業では、売上高 34 百万円(同 88.2%)、営業損失 26 百万円になりました。

⑥ 宮崎交通㈱ 熱源センター事業

熱供給業務では、外気温が年間を通して前年並みとなる中、コロナ禍の影響による供給先一部店舗の臨時休業、営業時間短縮等があり、熱供給収入は前期を下回りました。

ビル管理業務では、複数年契約の継続により安定した収入を確保いたしました。

宮交グループ

修繕請負業務では、修繕工事の中止および延期となった影響から、当期は減収となりました。

その一方で、施設の運営状況に即した機器の省エネ運転を実施するなど、コスト削減に努めました。

熱源センター事業では、売上高2億13百万円(同 63.5%)、営業利益17 百万円(同 127.1%)と、減収増益になりました。

⑦ 宮崎交通(株) 不動産事業

宮崎駅西口開発について、JR九州と共同開発を進めてきた「JR宮交ツインビル」は9月に竣工し、11 月に“アミュプラザみやざき”をグランドオープンさせました。多くのお客様にご利用いただき、宮崎駅西口の賑わい創出につながりました。

また、高鍋整備工場跡地を整地し、賃貸物件として準備を行いました。

新規事業として3年前に展開したフランチャイズ事業の「ウェンディーズ・ファーストキッチン」については、新型コロナウイルス感染症など昨今の経済、社会状況を鑑み 8 月に閉店いたしました。

不動産事業では、売上高 3 億 46 百万円(同 89.9%)、営業利益 1 億 8 百万円(同 82.8%)と、減収減益になりました。

⑦ 宮交タクシー(株)

タクシー事業では、新型コロナウイルス感染症による影響により、各種イベントが軒並み中止となる中、修学旅行における観光タクシーの大口台数の受注、ならびに特例措置である有償貨物運送事業として飲食店の商品配達、さらには GoTo トラベル等の各種キャンペーンに参画し、収入の確保に努めました。

また、需給調整のため、雇用調整助成金を活用した出勤調整に加え、車両の休車、車両更新の見送り、待機場の見直し等によるコスト削減を行いました。併せて、県の助成金を活用して車内除菌装置を全車両に設置し、お客様および乗務員の感染防止対策にも努めました。

貸切バス事業では、コロナ禍で需要が減少している中、コミュニティーバスなどの請負事業においては前年度の契約を維持し、安定的な収入を確保する事ができました。

また、支援学校スクールバスの増便分を入札・獲得するなど、増収に努めました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により、タクシー事業の輸送回数は前期比 64.9%、運送収入同 68.0%、貸切バス事業についても輸送回数同 44.2%、運送収入同 25.5%と、前期を下回りました。

宮交タクシーでは、売上高 12 億 76 百万円(同 67.1%)、営業損失 2 億 17 百万円になりました。

⑨ 株宮崎観光ホテル

新型コロナウイルス感染拡大により、宿泊・バンケット・レストラン等、全ての部門の大きな影響を受けました。

緊急事態宣言発令後には、レストランの集中運営や営業時間短縮のほか、客室の稼働状況に合わせ、5月より東館をクローズし西館のみのオペレーションを実施しました。10月には組織のスリム化と業務のシンプル化を目指した組織改編を実施するとともに、新しい生活様式に合わせた提案等の営業面の強化を図りましたが、宿泊者数が前期比 39.6%、バンケット収入同 27.2%、レストラン収入同 23.9%と大幅に落ち込みました。一方で、外部委託していた食器洗浄業務や客室清掃業務などを内製化し、大幅な経費圧縮を図りました。その他、雇用調整助成金の休業取

⑩ 宮交グループ

得など、様々な経費圧縮施策を実施しましたが、売上の大きな落ち込みを補うことはできませんでした。

宮崎観光ホテルでは、売上高9億77百万円(同33.9%)、営業損失8億26百万円になりました。

⑩ 青島リゾート㈱(ANA ホリデイ・イン リゾート 宮崎)

新型コロナウイルス感染症の影響により収入が落ち込む中、緊急事態宣言を受け78日間全館休業を行ったほか、コスト削減に向け外注費の抑制を図るために10月より客室清掃の内製化を行い、損益改善に努めました。

宿泊部門では、第3四半期を中心にGoToトラベルによる宿泊需要の増加や県内小学校を中心とした修学旅行の積極的な獲得と2月スポーツキャンプの受入もありましたが、度重なる緊急事態宣言などにより個人・団体ともに観光客等が大幅に減少しました。レストラン部門では、GoToイートやジモ・ミヤ・ラブクーポン利用者などの獲得にむけた伊勢海老商品等の高額商品販促に努めましたが、宿泊者数が前期比の43.3%、レストラン収入同49.3%と大きく落ち込みました。

青島リゾートでは、売上高7億50百万円(同51.2%)、営業損失2億96百万円になりました。

⑪ 宮交ショップアンドレストラン㈱

新型コロナウイルス感染症の影響による、観光産業の根幹となる人の移動制限に加え、各施設の臨時休業・時短営業により、売上は大きく前期を下回りました。

レストラン・売店部門では、安心してご来店いただくため感染拡大防止対策を徹底するとともに、安心安全な旅「マイクロツーリズム(短距離旅行)」にターゲットを置き、宮崎の魅力を再発見してもらう取り組みとして、宮崎県下で活躍の企業の特産品数を増やし、地域魅力の創出に努めました。

営業部門では、観光客の減少に伴い箱菓子商品の売場の縮小を進め、加工食品の売場を拡大し、コロナ禍におけるニーズに合わせた商品展開を実施しました。ネット通販事業では、販売チャネルを増やし、コロナ禍におけるステイホーム需要の獲得に努めました。

なお、3つの指定管理事業(えびの高原荘、ホテル高千穂、歓鯨館)は収支改善に向けて2021年3月で撤退いたしました。

宮交ショップアンドレストランでは、売上高12億73百万円(同43.2%)、営業損失5億69百万円になりました。

⑫ 宮崎ビルサービス㈱

新規事業や竣工清掃の受注、契約単価の見直しによる単価アップはあったものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、ホテル清掃関係の内製化による契約解除やイベントの中止・縮小、また航空会社より受託している宮崎空港発着便の機内清掃についても減便による影響により、受注数は大きく減少しました。

経費については、不採算部門の縮小・撤退や時間外抑制および外部委託費を抑制しコスト削減に努めました。

宮崎ビルサービスでは、売上高10億44百万円(同83.1%)、営業利益11百万円(同129.9%)と減収増益になりました。

3. 連結有利子負債の状況

2020年3月31日残高	14,807百万円
2021年3月31日現在残高	22,681百万円
差 引	7,874百万円

4. 2021年度の取り組みと計画について

① 宮崎交通㈱ バス事業

バス事業全体として、コロナ禍により縮小した需要は以前ほどには回復しないことを前提に、関係各所と連携し、ダイヤの見直しや減便・運休等の需給調整を図りながら地域の交通事業者としての役割を果たしてまいります。また、運行系統数や車両数の削減を進め費用の圧縮を図ります。同時に、運転士をはじめとする人材確保は最優先課題であり、必要な人材は採用しながら定着率向上に向け積極的に取り組みます。

一般路線バスでは、地域に最適な移動サービスを提供するために、以前からの課題である赤字解消に向け、自社の努力はもちろんのこと、各行政機関と協議を行ってまいります。また、客貨混載事業拡大や他の交通機関との連携強化など新たな収益の基盤づくりを進めてまいります。

高速バスでは、不採算路線の休止・廃止を進め、市場環境に合わせた需給調整を徹底してまいります。また、路線や便ごとにダイナミックプライシング(変動運賃)を導入し、収入の最大化を図り、バス事業の収益の柱として確実な利益確保を目指します。

貸切バスでは、市場環境に合わせて台数を減車し保有台数の適正化を図ります。また専属運転士の勤務見直しや間接部門の縮小による効率化により、収益率の向上を図ってまいります。加えて協力関係にある貸切事業者との連携体制を強化してまいります。

広告宣伝では、継続して営業に関する業務を広告代理店へ移管し、販売チャネルの増加によりさらなる販路拡大を行い、ラッピングバスの新規獲得に努めてまいります。

② 宮崎交通㈱ 旅行事業

今後も影響が残るであろうコロナ禍に対応するため、昨年実施した拠点の集約と要員の効率化をさらに進め、徹底したローコストオペレーションに取り組めます。

主催旅行では、WEB販売やホームページの内容を充実させるなど、さらなるデジタル化を進め、With コロナを前提に、新たなニーズにも対応しながら、「新しい旅のスタイル」を商品化していきます。

手配旅行においては、法人・団体へのアプローチを継続し、感染防止対策を徹底した「安心で安全」な管理型旅行にて需要の回復を図っていきます。

今後、アフターコロナも視野に入れつつ、変化していく旅行需要に、迅速かつ丁寧に対応ができるよう準備してまいります。

② 宮崎交通㈱ 航空事業

航空事業では、新型コロナウイルス感染症の影響による航空各社の大幅な減便や乗降旅客数の減少が継続しています。このような環境の中、安全の追求を第一に取り組むとともに、品質維持のため人材育成と定着率向上に注力してまいります。

また、運航計画に即した出勤数調整を徹底し、従業員のマルチスキル化により生産性の向上を図りながら、安全性・定刻性・利便性などのサービス品質の向上に努めてまいります。

宮交グループ

④ 宮崎交通㈱ 保険事業

保険事業では、競合する保険代理店との差別化を図るため、来店型のアフラックサービスショップを開設し、既存契約者のサポートに加え、新たな顧客との接点強化による新規契約の獲得に努めてまいります。また、多様なニーズに寄り添ったご提案ができるよう、これまで以上に日々の情報収集や幅広い商品知識の習得に励み、顧客サポート体制、保全サービス力の向上に努めてまいります。

⑤ 宮崎交通㈱ こどものくに事業

こどものくにでは、市民の憩いの場となるよう「自然と遊ぶ自由な空間」をテーマに、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を継続し、安全に楽しめる場所として提供してまいります。

こどものくにガーデンでは、市民参加型ボランティアグループ「ときどき花くらぶ」の協力を得て魅力ある庭園を発信できるよう引き続き修景活動に取り組んでまいります。

パークゴルフ場では自主大会の実施を通して健康増進のスポーツとしての魅力を発信しながら、隣接する「ANA ホリデイ・イン リゾート宮崎」と連携し、青島地区全体の活性化に貢献してまいります。

⑥ 宮崎交通㈱ 不動産事業

不動産事業では所有する不動産のさらなる有効活用を進めてまいります。

また、「アミュプラザみやざき」来館者数増加に向けて、引き続きイベント誘致等、宮交グループとしても販促を行うとともに、地域の皆様と連携を図り中心市街地の活性化に取り組んでまいります。

⑦ 宮交タクシー㈱

コロナ禍の影響により、当面は厳しい状況が予想されますが、安心してご利用いただくための感染対策に万全を期すとともに、今後、各地で展開されるワクチン接種における需要の取り込みや、有償貨物事業をはじめ、修学旅行や各種研修等、地域の皆様の多様なニーズにお応えできるよう努めてまいります。

また、収支改善のため、引き続き状況に合わせた需給調整や営業体制の見直し等によるコスト削減も継続してまいります。

⑧ ㈱宮崎観光ホテル

2021年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症による影響が予想され、厳しい経営環境が継続するものと思われれます。

その中でも「観光宮崎のシンボル」として、また宮崎の経済界におけるビジネス活動の拠点としてあり続けるために3つのコア事業(宿泊・バンケット・レストラン)に注力し、それぞれの強みを磨き上げてまいります。

さらに、2つの館をそれぞれブランディングし、ブランドコンセプトに合わせた宿泊・バンケット・レストランを展開します。東館は宿泊・バンケットを担う「品格を備えたハイグレードなビジネスの拠点」として、西館は宿泊・賃貸事務所・商業施設を担う「親しみある地域密着型複合施設」として、ご利用いただくお客様の期待に沿えるサービスの提供を目指します。

常にお客様のニーズや環境に合わせた商品造成や館内オペレーションの見直しを行い、激しい環境変化に対応できる経営体制を構築してまいります。

⑨ 青島リゾート㈱(ANA ホリデイ・イン リゾート 宮崎)

コロナ禍の影響が続く中で、個人客の獲得に向けた販売促進を強化いたします。IHGグループとの連携強化によるイールドコントロールを行い、客室販売単価の向上を図るとともに滞在型

宮交グループ

商品(ワーケーション・サブスクリプション商品)を中心における平日の集客強化を図ります。宿泊客数に応じた出勤数調整や内製化の徹底により、引き続きローコストオペレーションを行ってまいります。

コロナ禍においてもお客様が安心できる環境とサービスの提供を通して新たな需要を掘り起こし、集客拡大に努めてまいります。

⑩ 宮交ショップアンドレストラン(株)

継続するコロナ禍の中、レストラン・売店部門では、継続して「マイクロツーリズム」を取り込み、「マンゴーラングドシャ」などの自社商品を中心とした販売強化を図るとともに、在庫調整を厳格化するなどコスト管理を徹底し、収支改善に努めてまいります。営業部門では、小売店向けの新商品の開発を行うとともに、県外の販路拡大に取り組めます。

⑪ 宮崎ビルサービス(株)

宮崎交通(株)熱源センターとの統合により両社が有する専門の知識・資格、ノウハウを集約・活用することで総合ビルメンテナンス会社としてサービス機能と営業力を強化し、業界内での競争力を高めることで収益性の向上に努めてまいります。さらに、資格取得などの人材育成と品質・サービスの向上に努め、収益拡大に取り組んでまいります。

※宮崎ビルサービス(株)は、2021年4月1日付で宮交ビルマネジメント(株)に社名変更いたしております。

新型コロナウイルス感染症のワクチン接種による効果も期待されますが、新しい生活様式の下、コロナ禍以前までの経済回復は見込めず、また一方で新型コロナウイルス感染症の新たな変異株の拡大は先行きを不透明にしています。今後も感染の拡大と縮小を繰り返し、当面は不安定な経済活動が続くものと予想されます。

当社グループにおいても引き続きコロナ禍の影響は残り、生活様式の変化や With コロナ時代が到来する中で、売り上げ規模が以前ほど回復しないと想定しています。加えてコロナ禍以前からの課題である人口減少によるマーケット縮小の渦中において、当社グループが生き残るための事業構造改革として「2021年度～2023年度宮交グループ事業再構築プラン」を策定し、どのような外部環境においても黒字を確保することを目指します。

本プランの基本方針として、引き続き運転資金の確保と資金流出の防止を継続しつつ、お客様に提供するサービス品質の維持・向上は絶対条件の下、中核事業における弱みを克服するとともに強みをさらに磨き上げることで、グループ全体の収益力強化を図ります。また不採算事業の縮小・撤退、徹底したローコストオペレーションを推進するとともに、グループ内人財有効活用などによって雇用は維持しつつ人件費を抑制します。

なお、2021年度は事業再構築における最重要時期であり、新しい宮交グループの創成期と位置づけ、収益力を向上させる基盤づくりの期間として全力で取り組みます。そしていかなる外部環境でも黒字を確保する体制を整え、強靱な宮交グループを作り上げてまいります。

2021年度におけるグループの主な取り組みとして、昨年秋に開業した「アミュプラザみやざき」による街の賑わいをさらに発展させるべく、需要に合わせながらバス路線の維持とサービスの拡充に努めるほか、宮崎観光ホテルの複合施設化などによって、人の動きの活性化を促し、新しい生活様式などによって停滞する県内の経済活動の再興に貢献してまいります。また県内外で予定されている大規模イベント等、開催が危ぶまれる状況にあっても常に受け入れられる体制を敷き、商機を逃すことなく収益確保に努めます。

引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止対策は優先事項とし、お客様の安心・安全と信頼につなげるとともに、生活に密着した社会インフラを担う使命感を持って、将来に渡りグループ一丸となって宮崎県の発展に貢献し続けてまいります。

2022年3月期での見込みは、以下の通りです。

(単位：百万円)

【グループ単純合算】	2022年3月期 見込	2021年3月期 実績	前期比較	前期比 (%)
営業収入	12,044	10,753	1,291	112.0
営業損益	△1,166	△2,659	1,492	—
経常損益	△1,365	△1,335	△30	—
親会社株主に帰属 する当期純損益	△1,275	△1,674	398	—
償却前営業損益	△443	△1,883	1,440	—

以上